

第1編 次期京都市基本計画の在り方についての提案

1 今、改めて基本計画の在り方を検討する意義

基本計画の歴史は40年が経過し、地方分権改革の推進、行政資源の枯渇など、地方自治をめぐる様々な環境が大きく変化
多くの具体的な事業を網羅的に掲げた計画ではなく、将来ビジョン、戦略、行政経営の仕組み等を示すことによって、より戦略的で効率的な行政運営が可能となる計画へと変化していくことが必要

2 次期京都市基本計画の在り方についての提案

(1) 計画の枠組みの在り方の提案

① 計画の位置付け

これまでの「行政計画」としての位置付けから、市民、企業など多様な参画主体と行政とが役割分担と協働によってまちづくりを進める指針となる「共汗型計画」として策定すべき
また、市民に親しまれる計画の名称を定めるべき

② 計画の期間

共汗型計画として中長期的な視点で考える必要があることから、次期基本計画の計画期間は概ね10年間が適当

③ 計画の内容(戦略的かつ簡潔明瞭な計画に)

戦略性と簡潔・明瞭性の両面から、以下の具体的な方向性を提案
● 京都の未来像と「融合」による重点戦略の設定
● 総合的な政策体系に応じた分野別方針の策定
● 行政経営との一体化
● 基本計画の下位計画として実施計画を策定
● 区基本計画や都市計画マスタープラン等との連携

(2) 計画の策定方法の在り方の提案

次期基本計画の策定に当たっては、以下のことに留意すべき
● 市民が主体となり、市民と市役所が協働する仕組みづくり
● 市会における十分な審議

(3) 計画の策定後のマネジメントの在り方の提案

次期基本計画の策定後は、以下の方向でマネジメントすることを検討すべき
● 次期基本計画の策定を機に意思決定に一層活用されるよう行政評価システムを再構築
● 点検委員会等の定期的な開催などにより、注力すべき取組を柔軟に変更するなど計画が進化していく仕組みを構築
● 社会経済情勢の変化や未来像の実現に向けた戦術の変更などにより、目標値を柔軟に見直す

第2編 京都市が目指すべき未来像と重点戦略についての提案

1 未来像

(1) 都市経営の理念

● 地域主権時代のモデル都市
～京都発・京都流～

(2) 京都の未来像

《生活・地域の視点》

《都市の視点》

● 誰もがすべてのライフステージを楽しめるまち
～ 子ども、若者、お年寄りに笑顔、安心、いきがい、夢を ～

● 助け合う地域、見守る社会、住み続けたい京都
～ これまでの資源を活かした市民主体による京都ならではの風を感じるコミュニティづくり ～

● 京都らしさを活かした環境先進都市
～ 環境を基軸に新たな京都型の生活・産業・観光・交通スタイルの開発 ～

● 交流の場を広げ発展し続ける都市
～ ひと・もの・情報を呼び込み、経済を活性化させる ～

2 重点戦略

各未来像に対応した4つの重点戦略を提案

U24を多世代交流の懸け橋に～ライフスタイルの仕組みづくり～

特に若年層(0～24歳)に焦点を絞り、子育てや教育などライフステージごとのニーズに応じて、あらゆる年代の人と人とのつながり・支えあいによるサポートの仕組みを構築

広がる共助、変わる公助～ジリキが育てる心地いい京都流コミュニティ～

これまで地域に蓄積されてきた人材や組織、施設などの資源を活かしながら、地域の住民相互の「共助」をさらに高めるための支援体制を構築

京スタイル したはる?

市民や来訪者が、自らのライフスタイルを転換することを切り口として、京都市が抱える「環境」、「観光」、「交通」の課題への融合的解決を達成する施策群を構築

人々が交流し創造する都市の形成による京都市の活性化

京都ブランドを高め、京都力を活用し、創造性豊かな人材の育成と産業の集積を図り、創造性あふれる「都市」の形成により、イノベーション(新産業)を創出